

認定NPO法人  
アカツキ  
2020年度  
年次報告書

# 年刊アカツキ 2020

たちどまる  
ふりかえる  
もういちどははじめなおす

コラム「小松菜を売らなかつた私」  
代表理事 雪松直子  
特集「オンライン化で変わったこと」  
相談・雑談・話し合い  
決算報告



認定NPO法人アカツキ

〒812-0013 福岡市博多区博多駅東1丁目4-1

中良(なかよし)ビル 505号室

Email : [info@aka-tsuki.org](mailto:info@aka-tsuki.org)

Web : <http://aka-tsuki.org>

# アカツキ理事・監事・職員紹介

 <p>雪松 直子 代表理事 認定NPO法人 アカツキ職員</p>	 <p>志賀 社史 理事 NPO法人 グリーンシティ福岡 理事</p>
 <p>高柳 希 理事 株式会社 ビッグトゥリー 代表取締役</p>	 <p>永田 賢介 理事 認定NPO法人 アカツキ職員</p>
 <p>鳥居 亜佑美 理事 コンサルティング 会社勤務</p>	 <p>岩橋 真一郎 理事 Carmity Ltd</p>
 <p>兵士 美和子 監事 教育プログラム 企画運営</p>	 <p>知名 健太郎 定信 監事 七燈法律事務所 弁護士</p>
 <p>白神 加奈子 職員 みずしめ財団 客員研究員</p>	 <p>日隈 諒 職員 大分県日田市 地域おこし協力隊</p>

NEW!

NEW!

- 14 13 11 9 7 5 4 3 2 1
- 会員一覽
- 4年ぶりのインターン生の受け入れ
- コラム「寄付を受け取るということ」
- ラジオ環状線 番組一覽
- 財務分析・決算情報公開
- バックオフィスから一言
- コラム「立ち止まることの意味」
- AKBNフアンドの取り組み
- 特集 オンライン化で変わったこと
- お便りコーナー
- コンサルティングの事例紹介
- 相談・雑談・話し合い、アカツキの役割言語化
- コラム「小松菜を売らなかつた私」
- アカツキ理事・監事・職員紹介/新メンバーのフィールド
- コラム「代表交代から一年」

## もくじ

## コラム「代表交代から一年」

代表理事を永田から雪松さんに交代し、一年が経ちました。二年間の準備期間に比べれば、あっという間だったという気もしています。

嬉しには、とても良い変化が起きていると感じます。雪松さんは「感情」や「愛憎」、そして「弱さ」や「柔らかなさ」を大切にしている人。「感情的には「理屈」や「数字」、それによる「強さ」を求めるのがコンサルタントだと思われがちですが、市民活動の支援、また自団体の運営においては、そこに関わら合う人同士の気持ちをしっかりと抱き上げる、関係性に働きかけることが重要だと、アカツキは考えているからです。

そこでは、永田では見落としてしまいう変化、できなかったであろう配慮、新しい視点が生まれます。雪松さんを中心に培え、彼等の感じ方や思考をトランスしようと試みることで、チームや組織が、より優しく/包摂的なものに変化しつつあると実感しています。

クライアントや支援者の皆さんの中でも「雪松さんだからこそ」というお声を頂くことが増えてきました。団体運営は一人の人間に依存してはいけない、しかし同時に誰も代わりのいない、かけがえないオリジナルであることと信じていること、両方を矛盾なく実現しようとするアカツキを、これからも文え、応援し、時にご参加頂ければ幸いです。

### 新メンバーのフィールド



▲新職員の日隈の生まれ故郷でもある日田市。2020年の7月に起きた天ヶ瀬の豪雨水害復興支援に彼が携わっているご縁から、被災地となった地元温泉宿を事務所職員員の研修・交流の場として選びました。



▲新理事の岩橋が関わっている、吉塚商店街活性化と地域住民と外国人の多文化共生のプロジェクト「リトルアジア」。そこで、現理事志賀が所属するNPO法人グリーンシティ福岡の「IZOOM de かんさつ会」のノウハウをお借りして、オンラインで紹介するイベントを開催しました。



## コンサルティングの事例紹介

### 代表交代と事業承継、より民主的な組織運営に変えていくために

北九州市からスタートし、駐輪場運営・交通/駐輪ムナー啓発/レンタサイクル事業などを手掛ける、現在福岡市や門司港にも活動を広げる、「NPO法人1100（アイティオ）旧団体名：タウンムービーネットワーク北九州」に、コンサルティング支援で伺いました。

1100は2020年5月にそれまで理事長を務めていた楠本さんから3月頃から相談を受け、新代表は誰になるのか、また、どのようなプロセスでそれを話し決定するのか、議論と対話のプロセスに伴走しました。

理事長交代後も、代表が1人で意思決定を行うのではなく、理事会や事業所のこのミーティングなど、「どこで」「なにを」「だがを」決定するのか。またのために必要な情報を、ホワイトボードやTrelloなど、何で共有するのを議論し、「一つひとつ形にしていくお手伝いをしました。

### 事務体制の整備と、理事も参加した進捗共有体制の構築

医療者の資格と旅行業の資格を合わせ持ち、まだ全国でも珍しい介護つき旅行・移動のサービスを行う「NPO法人あすも特注旅行班」に、コンサルティング支援を実施しました。

事務体制の整備のためには、事務所に通って、代表と事務のパート職員が業務を正確に、また効率的に実施できるよう、タスクを洗い出し、それぞれに対応したチェック用の書式を準備しました。

同時に、それらの改善の取り組みが担当者だけの負担にならないよう、理事や正会員による毎月の定期的な運営会議を実施し、議題の確認・進行・記録の作成を担いました。

ある程度、運営会議の形が整ってきた後には、新しい参加メンバーの挨拶や、期待はこのご明確化を行い、加入後にはこれまでの経緯やアカツギの役割を引き継ぎ、コンサルタントが不要な体制づくりのため、ゆるやかな移行を実現しました。

家族との時間	やりがいある仕事	趣味の仲間
健康	自己成長	気が許せる友人
美味しい食事	お金	一人の時間
新しい刺激	十分な睡眠	誰かに感謝される

同じ組織で働く人でも、価値観はそれぞれ異なることを確認・共有するために、ワークを行いました



毎月支払い

内容	金額	支払先	支払時期
法人会費	40000円	→ 法人会	3/31まで
経理費	40000円	→ 経理会社	2/27
経理システム費	40000円	→ 経理会社	2/27

半年ごとの支払い

内容	金額	支払先	支払時期
法人税	400000円	→ 国税	3/31
経理システム料	400000円	→ 経理システム提供	3/31
年会費	400000円	→ 年会費	3/31

仕入れや精算など取引が多いため、支払い遅れや漏れが無いよう、事前にわかっているものをリスト化しました

### コロナで止まってしまった行政との協働事業を大幅に組み替え

大分県日田市で、絵本を題材にして、音楽やよみかぜ、ワークショップ、本セーブイベントなどを取り入れ、幅広い世代に楽しんでもらう活動を行う市民団体「エホント」に、伴走支援を行いました。もともと、2020年度中に、読み聞かせだった行政との協働による、読み聞かせなど対面のイベントは、新型コロナウイルス感染症の予防のため、全て延期に。しかし、秋になっても収束が見込まなく、大幅な変更を余儀なくされました。

おすすめの絵本を紹介する冊子をつくりたいというころまでは決まっていたため、そのために必要なタスクを、相談相手・予算配分・役割分担・スケジュールなどの軸でお尋ねし、ホワイトボードに記載して、記録資料に落とし込みました。

同時に、これまで懸案だった、事務所の移転、会計作業の引き継ぎ等について、メンバーが腰を据えて本音で話し合う場の「聞き手」を担いました。

### 誰かに点数をつけられるのではなく、自分たちの言葉で評価していく

福岡県内で、「かんらん舎」（結ホーム）「リープ」という3箇所の自立援助ホームを運営する「NPO法人青少年の自立を支える福岡の会」に、開発中のふりかえり評価のモニターを行なって頂きました。

ふりかえり評価はこれまで団体の事業や組織運営で、起こしたこと/そこで感じたことを振り返ることを通じて、「一人一人の背景や価値観の異なる、または重ならない部分を確し合ひ、団体のこれからに活かしていく評価の技術です。

コロナウイルス感染症への配慮から、残念ながら各ホーム長とボランティアの4人という少人数開催となりましたが、付箋や速紙を活用して、気持ちを書き下して再確認する機会をつりました。

評価結果をそのまま外部に出してしまったりは、ポジティブPRのような言葉だけが選別され、未だに重要なことが落たされまわります。未だに実施手法と感想のみを情報公開の対象としました。



「田の字法」というフレームを使用し、過去から未来へ、順番に想いを言葉にしてみました



企画	計画
「家」…たぐらむ	「家」…結かむ
<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 言葉や目的</li> <li>○ 何のためにやる?</li> <li>○ ターゲット</li> <li>○ 誰に来て欲しい?</li> <li>○ 誰が何をやる?</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 期間</li> <li>○ ステジュールは?</li> <li>○ 資金</li> <li>○ 仮定はいくら?</li> <li>○ 誰が何人やる?</li> </ul>

会議は、発想や夢を広げていく「企画」と、現実と落とし込む「計画」に分けて整理する考え方を伝えました

## オンライン化で変わったこと 支援者からのお便りコーナー



前向きに思いやりをさけるようにしたい。自分のペースで過ごせる。自分も大事にする。という時間が増えた。

～べべ

はじめまして  
ご自宅の様子、ご家族の様子を見る機会が増えました。

～きだちゃん

自分の顔が見えた状態で会議するので、  
気が散る！

～かまねこ

オンラインに対応できない人を持つ事が難しくなった。

～ぶりしょ

オンラインだと嫌だ！でもパソコンは楽しい！

～みーちゃん  
(小学生)

子ども達と接する時間が増え「おかえり」と家で迎えられる日が増えた。

～よっしー

### アカツキ内部の変化

以前にも増して、皆で進めている気持ちに

これまでは、事務局のミーティング予定が入っている、クライアントから急なアポが入ると、こちらを優先することが多くありました。それがオンラインにより、どこにいても、直前まで何をしていても、すぐにミーティングができるようになったことで、毎週2時間みっちり情報共有を行い、より民主的な意思決定ができるようになっていきました。

### 工夫の余地はまだたくさん

オンラインコンサルティングの際、ホワイトボードが使えず、図や表での説明や整理がづらいため、グーグルドキュメントの利用など、行錯誤していますが、まだまだ発展途上です。

また、どうしても言葉のニュアンスやリアクションが伝わりにくいので、表情や身振り手振りを、ややオーバーなくらい豊かにしています。非言語的な振る舞いも、フアンリレーションの一部であると考えています。

### 移動範囲は狭くなる、出会いが増える？

出張や対面での打ち合わせが激減し、セミナーが終わった後の名刺交換や交流がなく、寂しく感じています。しかし同時に、県外からの「はじめまして」の団体からの依頼が続き、出合いは増えているとも言えます。

### 職員の日々、それぞれ

▼いつかはオンラインに慣れるかと思っただけでリアルで会う表情のあったかさや、小さく表現する気持ちの深みはいつまでたっても恋しいままです。(言心)

▼オンライン会議は朝ギリギリまで寝てられるので、睡眠時間が長くなって嬉しいです。ユーチューブやアマゾンプライムをより観るようになり、趣味が広がりました。(永田)

▼在宅作業しているときに、コンソにやかんや鍋をかけたまま集中してしまい、危うく…ということが何度か。他の職員と話す機会はオンラインでもむしろ増えました。(白根)

▼座っている時間が増え、猫背な一コマもあり、オンライン続きで腰を痛めました。パソコン用のスタンドを買ってみたり椅子の高さを変えてみたりしたけど、まだ良いものを見つけれられていません。(白根)

#### オンライン対応NPO事業紹介

オンライン化に取り組んだNPOの事業について、ヒアリング調査を行いました。10団体に協力いただき、その準備の工夫や実践のポイントをまとめ、WEBサイトで公開しました。

<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>
<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>	<p>社会福祉協議会 「社会福祉協議会」</p>

また、本事業の実施にあたっては、「新型コロナウイルス対策支援特別募集 令和2年度 福岡市NPO活動推進補助金」を活用させて頂きました

会議開催が楽になり、開催の頻度が上がった。出張中に遠方から参加する、なんてのも可能に。 -からすみ

セミナー参加のハードルが下がって気軽に申し込んでしまう分、たまに「ながら受講」してしまいます。 -ハナコ

発言のタイミングを失ってしまったり、相槌は赤べこのように増えたかも。 -てんとう虫子

人員体制や予算の厳しい部署ほどオンライン体制の構築が難しく、より苦しい状況になっているように思う。 -いなり



## 解説と財務分析

2019年度と比較して2020年度は持続化給付金なども除いても、収入・支出とも、ほぼ倍増となりました。これは、コロナ禍の影響があったものの、福岡県のセンター運営や評価に関する委託事業収入の割合が増えたこと、加えて、トヨタ財団の助成金が約50万円収入としてあったものの、謝金や委託費でのつり合いが割近くは、進捗先や専門家への謝金支出となっていることが理由です。

収入面では、講座が中止になったり、依頼が減ったことで人材育成事業収入が前年比40%も減りました。一方、コンサルティング事業は71%増となっていますが、3ヶ月1半年程度の短期のもの、また、依頼からの依頼が増える傾向があります。また支出面では、前年度までは旅費交通費や支店費が多くを占めていましたが、オンライン対応が増えたため、これらの支出は激減し、逆にモバイルリーダーと通信費が増えました。

コロナ禍から今後数年かけて、企業の助成金や行政の委託事業といった財源が縮小していくことが予想されます。そのことを踏まえた上で、第3期目の中長期経営計画を策定中です。

## バックオフィスから一言「2020年度は変化の年」

アカウンツ職員 白神 加奈子

支出の内容に大きな変化があったことをはじめ、選まながらネットバンクの導入なども、会計や事務でも、変化を実感した2020年度でした。事務的な面でも、今までは、直接提出にしていた申請書も、すべて郵送に変わりました。つまり、「前と同じ方法でやればいい」と思っていたのですが、数年の間にみんな方法を継承してきたことは、他の団体の相談を聞く上でもよかったと感じています。2021年度も、柔軟に日々の会計・事務でも工夫していきたいと思います。

## 認定NPOのメリット

500万円以上の減税

2019年度は非営利のため、納税は地産地消の約7万1千円のみでしたが、2020年度は非営利減税となっており、500万円の法外税を支払いました。

これだけでなく、経理公益額にもなるものと驚きましたが、顧問税理士の熊谷春江さんによると、実は「これは認定NPO法に認められた「みなし寄付」ということで、控除額を利用しからなくて、この金額に収まったのと同じくらい、もし認定NPOでなければ、なんと70万円にもなっていたそうです。

認定NPO法の税制面のメリットは4つあり、その中で、NPO法自体に優遇があるのがこの「みなし寄付」です。ちなみに、残りの3つは、個人寄付者と法人寄付者、相続人が税制優遇の対象者です。

サポーター会費、つきまきサポーターや郵送の寄付金については、寄付金控除の対象として、確定申告により最大で50%近くが還付されます。ぜひ活用してください。

## 活動計算書 (2020年4月1日～2021年3月31日)

科目	金額 (円)	前年比
経常収益		
受取会費	396,000	94%
受取寄付金	742,000	150%
受取助成金	5,263,000	-
事業収益	7,139,530	171%
1.コンサル事業収益	7,139,530	171%
2.人材育成事業収益	726,270	40%
3.調査研究事業収益	17,000	-
4.市民活動助成事業収益	89,000	11%
その他収益	47	181%
雑収益	2,211,200	-
経常収益 計	16,584,047	215%
経常費用		
事業費	4,829,881	114%
諸謝金	3,512,875	249%
会議費	37,582	66%
支払手数料	31,750	185%
旅費交通費	356,205	25%
消耗品費	294,006	199%
印刷製本費	13,006	33%
交際費	60,831	38%
租税公課	1,400	-
賃借料	50,178	368%
通信運搬費	171,618	103%
研修費	93,000	69%
新聞図書費	47,285	252%
雑費	60,000	111%
支払助成金	227,500	57%
外注費	319,000	-
委託費	890,000	-
事業費 計	10,996,117	157%
管理費 計	1,460,916	82%
経常費用 計	12,457,003	142%
当期経常増減額	4,127,014	-
法人税/住民税/事業税	209,300	295%
当期正味財産増減額	3,917,714	-
前期繰越正味財産額	3,081,011	73%
次期繰越正味財産額	6,998,725	227%

## ポイント解説

① 雑収益  
延命給付金、救済支援補助金です。

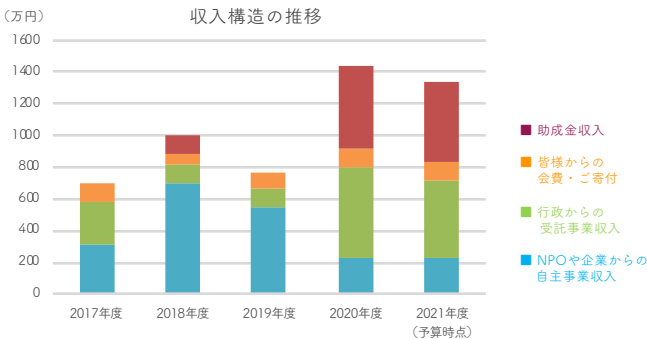
② 諸謝金  
助成金を活用した事業や委託事業の割合が高く、謝金の支払が非常に多くなりました。

③ 旅費交通費  
前年度までは、毎月のように意外への出張がありましたがほとんどがオンラインに置き換わり旅費は減りました。

④ 消耗品費  
業務に使用するノートパソコンを購入したため、額が大きくなりました。

⑤ 賃借料  
オンラインセミナー用にネットワーク回線の貸い会議室を借りたり、参加者フォローのために携帯電話をレンタルしたため額が大きくなりました。

⑥ 次期繰越正味財産額  
コロナ禍の影響がありつつ、委託事業や助成金事業が多い期ではあったので、結果として黒字決算となりました。



## 貸借対照表 (2021年3月31日時点)

資産の部			負債の部		
科目	金額 (円)	科目	金額 (円)		
流動資産		流動負債			
現金	156,927	未払金	388,000		
普通預金	6,170,215	預り金	6,510		
未収金	1,275,393	未払法人税等	209,300		
流動資産 合計	7,602,535	負債の部 合計	603,810		
		正味財産の部			
		正味財産			
		前期繰越正味財産額	3,081,011		
		当期正味財産増減額	3,917,714		
		正味財産の部 合計	6,998,725		
資産の部 合計	7,602,535	負債・正味財産の部 合計	7,602,535		

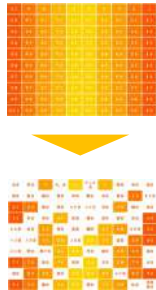
「コラム」寄付を受け取るということ」  
 アタック職員 日限 談

「僕自身いくつかの団体に寄付をしたことがありますが、その際に毎回考えるのが「その団体の顔が見えるかどうか」。顔とは、実際に動いている現場のスタッフの様子がイメージできるかどうかです。寄付のお願いからその後のコミュニケーションを通して、お互いを知り、デザインは権柄でも、思いが込められていると、暖かい気持ちになります。

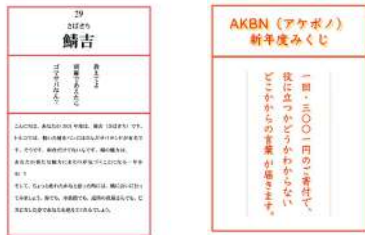
近年、NPOの業界の中で様々な寄付の種類や調達方法が増えきている。戦略設計や広報手段などに目が行き、そもそも根本にある部分の部分が薄まっているように感じることがあります。

寄付を受ける時に、資金調達、という文脈で始まることが多く、寄付者の立場を考えずに寄付を追ってしまっていることがあります。相手の顔を見て、血の通ったコミュニケーションの先に、継続支援などがあり、支援が集まるから直筆のお礼を書くという順序になった瞬間、本当に大切な人と人のやりとりである、という部分を見失ってしまう危険性があると思っています。

僕自身もこれからも相手の顔を想像し、血の通ったコミュニケーションを意識して、NPO支援に携わってきたいと思います。



2021年4~5月に実施した「おみくじ」型寄付キャンペーンです。  
 57名の方に引いていただき、171,057円の資金をお預かり致しました。



アタックの仲間になってくださってありがとうございます(会員一覧)

- 【正会員】  
 宇都 龍志 さん 小島 理絵 さん 小刈 高兵 さん 鈴木 大空 さん 多原 真実 さん 野崎 大晴 さん 池本 桂子 さん 富永 沙和 さん  
 古橋 範明 さん 大島 隆 さん 稲月 ひかり さん 大庭 勇 さん 原口 尚子 さん 崎崎 友貴 さん 加藤 健太 さん 大倉 慶子 さん  
 青木 玲奈 さん 森田 義也 さん 小池 達也 さん 日限 諒 さん
- 【サポーター会員】  
 田邊 結美 様 栗田 将行 様 中国 明日香 様 原田 君子 様 松島 弘哉 様 山田 なな子 様 坂崎 あゆみ 様 増永 弘子 様 相浦 圭太 様  
 清水 隆哉 様 鶴田 文隆 様 智史 様 渡邊 裕子 様 河合 玲生 様 藤野 翔 様 白神 加奈子 様 谷口 竜平 様 池本 真一 様  
 植村 康子 様 立花 花平 様 今村 篤章 様 福岡 裕一 様 ブロス 棟安 友子 様 友次 友み 様 高野 高彦 様 亞祐美 様 工藤 宗生 様  
 上村 一隆 様 西澤 一様 加賀部 貴行 様 土美 和子 様 末本 真香 様 中草 政也 様 若水 真一 様 牧田 尚志 様  
 小島 美緒 様 谷口 真葉 史 様 河内 山 信一 様 安西 隆二 様 橋本 英樹 様 吉良 泰生 様 藤崎 謙作 様 濱田 千夏 様  
 栗原 裕子 様 渡真利 藍一 様 富士木 和博 様 佐藤 智重 様 久保 匡 様 多田 育英 様
- 【つぎサポーター】  
 野崎 大雅 様 フィッシュ 明子 様 青木 玲奈 様 金子 颯一郎 様 佐藤 直美 様 津賀 高幸 様 小森 耕太 様 大橋 日出男 様 佐藤 貴美 様  
 藤本 正明 様 岸崎 あづさ 様 陶山 恵子 様 池田 純一 様 小島 理絵 様 午嶋 里子 様 寺床 幸雄 様 坂井 光雄 様 渡可 隆太 様  
 藤田 亮子 様 牛島 義子 様 藤浅 美和 様 中川 啓子 様 大岡 純平 様 影山 知明 様 北村 政紀 様 山中 祥子 様 黒田 美穂 様  
 坂辺 達彦 様 植原 真二 様 松原 明 様 大島 一亮 様 田中 美幸 様 山崎 秀樹 様 藤原 見里紗 様 尾中 美穂 様 松浦 卓夫 様

(2021年6月末現在氏名公開の方のみ)



4年ぶりのインターン生受け入れ

2020年11月より、北九州市立大学の藤原 一朗君、通称「サンナメ」が、そして翌年2月からは、福岡女子大学の吉田小春さん、通称「アンドレ」が、インターンとしてアタックに参画してくれました。

当初はアタックのクライアント訪問に同席したり、セミナーに参加することが多かったのですが、そのうち、本人たちの関心や困りごとから、持ち寄り立ち寄る場「いっでんわ」という企画を立案し、実施してくれました。

このイベントは「距離を保ち、ふらっと思いを持ち寄って話せる居心地の良い場」というコンセプトで行っており、参加者の思いやお菓子をもち寄って1時間ほどおしゃべりをするもので、対面(屋外)、対面(屋内)、オンラインと、様々な形態でのテストを実施を行いました。今後も定期的に開催予定ですので、興味をお持ちの方ぜひ、気軽にご参加ください。